

平成 30 年度第 2 次燕市食育推進計画の進捗状況

健康づくり課

「食を通して心のつながりと元気なからだを育てます」

基本目標	重点施策	H30 担当課及び評価(※)	資料No.
目標1 健康寿命の延伸を目指し、 望ましい食生活を実践する	望ましい食習慣の定着	健康づくり課(A)・健康づくり課(A)・健康づくり課(B)・健康づくり課(A)・健康づくり課(B)・子育て支援課(B)・子育て支援課(A)・学校教育課(A)・学校教育課()・社会教育課(A)・社会教育課(B)	No.1. 2. 4. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 18. 19.
	生活習慣病発症予防・重症化予防のための取り組み	健康づくり課(A)・健康づくり課(A)・健康づくり課(B)・学校教育課(A)・学校教育課()	No.1. 2. 7. 10. 11.
	若い世代の正しい食生活に体する食育の推進	健康づくり課(A)・健康づくり課(A)・健康づくり課(B)・健康づくり課(B)・子育て支援課(A)・学校教育課(A)・学校教育課()	No.1. 2. 4. 7. 9. 10. 11.
	高齢者の低栄養予防のための取り組み	健康づくり課(A)・長寿福祉課(B)	No.6. 13.
	歯科保健活動における食育の推進	健康づくり課(A)・健康づくり課(A)・学校教育課(A)・長寿福祉課(B)	No.1. 5. 10. 13.
	災害に対する食の備え	健康づくり課(A)・学校教育課(A)・防災課(A)・防災課(A)・防災課(A)	No.2. 10. 22. 23. 24.
目標2 食を通じたコミュニケーションと 食への感謝の気持ちを育む	食を通じたコミュニケーションの促進	健康づくり課(A)・健康づくり課(B)・健康づくり課(A)・子育て支援課(B)・子育て支援課(A)・学校教育課(A)・学校教育課()・社会教育課(B)・地域振興課(B)	No.2. 4. 6. 8. 9. 10. 11. 19. 20.
	食への感謝の気持ちや基本的マナーの定着	健康づくり課(A)・健康づくり課(B)・子育て支援課(B)・学校教育課(A)・学校教育課(A)・社会教育課(B)	No.2. 7. 8. 10. 12. 19.
	食の循環や環境を意識した食育の推進	健康づくり課(A)・生活環境課(B)・社会教育課(A)	No.1. 16. 18.
目標3 食に関する様々な体験を通じ、 燕市の食文化を次世代へ伝承する	子ども、若い世代の食に関する体験活動の促進	健康づくり課(A)・健康づくり課(A)・子育て支援課(B)・子育て支援課(A)・社会教育課(B)	No.2. 3. 8. 9. 19.
	食文化の伝承に向けた食育の推進	健康づくり課(A)・子育て支援課(B)	No.3. 8.
目標4 食の安全と地元産農産物への理解 を深め、地産地消を推進する	食の安全・安心の確保	健康づくり課(A)・学校教育課()・学校教育課(A)・農政課(A)・農政課(B)・社会教育課(A)	No.1. 11. 12. 14. 15. 18.
	地産地消の推進	子育て支援課(B)・学校教育課(A)・農政課(A)・農政課(B)・社会教育課(A)・商工振興課(A)	No.8. 12. 14. 15. 18. 21.
	食品衛生の面からの食の安全の確保	生活環境課(C)	No.17.

※評価:(A)実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている

(B)食育の視点を取り入れ事業を実施している

(C)食育の視点での事業を実施できなかった

()評価なし

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 健康づくり課 成人チーム

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標	基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する						
	基本目標2:食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む						
	基本目標3:食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する						
	基本目標4:食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する						
施策	望ましい食習慣の定着			食の循環や環境を意識した食育の推進			
	生活習慣病予防・重症化予防のための取り組み			食の安全・安心の確保			
	若い世代の正しい食生活に対する食育の推進						
	歯科保健活動における食育の推進						
実施状況	①事業名	つばめ食育だよりでの食育の情報提供					
	②実施時期	毎月19日	③実施対象	市民、職員			
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	毎月19日が食育の日であることのPRと食育、健康に役立つ情報等を燕市の状況と合わせて発信する。今年度より掲示場所を増やし、保育園、幼稚園、子ども園、支援センター、児童館、児童クラブ、なかまの会、スーパーマーケットのほか、市内体育施設、道の駅に掲示を依頼し、また、燕市ホームページ、公開羅針盤、つばめ元気ががやきポイント事業web、庁内、保健センター内、公民館にも掲示、周知している。また1年間分の食育たよりを冊子にまとめ、市内医療機関52施設、保健センターに設置している。					
	事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30
掲示施設数			食育だよりを掲示する施設の数	施設	目標	64	平成29年度の実績64施設をもとに算出
					実績	72	
					達成率	112%	
評価	A欄	達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		食育だよりのテーマを、早寝早起き、フレイル予防、咀嚼の大切さ、食中毒予防、男性や子どもの料理推進など、食と健康に関わる多面的な視点をもって企画した。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		さらに様々な年代に見てもらえるよう、各地区の体育施設、道の駅など新たに掲示場所を増やした。			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		燕市の現状や課題も取り入れ、市独自の食育情報となるよう作成し、普及啓発に努めた。			
評価	B欄			③			
成果及び今後の課題		ポスターの掲示や医療機関への冊子の設置、ホームページ掲載、webシステムの配信など、さまざまな媒体を使って周知を行った。施設や医療機関で食育だよりを目をとめた市民から、問い合わせを受けたり配布を希望される事もあった。今後も食育だよりのテーマを充実させ、さらに多くの人に見てもらうため、引き続き、地区相談会や食育活動でも積極的に活用していきたい。					
担当課による評価結果			A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている				

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 健康づくり課 成人チーム

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標	基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する						
	基本目標2:食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む						
	基本目標3:食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する						
	基本目標4:食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する						
施策	望ましい食習慣の定着			食を通じたコミュニケーションの促進			
	生活習慣病予防・重症化予防のための取り組み			食への感謝の気持ちや基本的マナーの定着			
	若い世代の正しい食生活に対する食育の推進			子ども、若い世代の食に関する体験活動の促進			
	災害に対する食の備え			地産地消の推進			
実施状況	①事業名		食生活改善推進委員の活動支援と養成				
	②実施時期		通年		③実施対象		燕市食生活改善推進委員
	④内容 (食育推進のための留意点等も)		研修会において、燕市の健康課題や望ましい食習慣の実践、郷土料理の普及などを伝えている。また、近年は災害時の食の備えについても学びを深め、パッククッキングなどの非常食についても実習をしている。食生活改善推進委員の養成は隔年開催のため、平成31年度に開催予定。				
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		活動回数	食生活改善推進委員の活動回数	回	目標	68	平成29年度の実績68回をもとに算出
					実績	81	
					達成率	119%	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		各班活動で減塩やメタボ予防、防災、郷土料理など、地区の実情に合わせたテーマで活動内容を計画している。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		対象者が参加しやすいように、子どもや親子を対象にしたときは休日に開催したり、また対象者の年代に応じたテーマで開催した。			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		調理実習だけでなく、減塩みそ汁の試飲などの体験や、寸劇やクイズなど、楽しく学べるよう媒体を工夫し健康教育を実施した。			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		今年度は、防災をテーマとした講習会を多く実施し、パッククッキングを広く普及した。非常時だけでなく、普段の食事にも利用できる調理方法であると好評であった。引き続き、燕市の健康課題でもあるメタボ予防や減塩についても推進していく。					
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 健康づくり課 母子チーム

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標	基本目標3: 食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する						
施策	子ども、若い世代の食に関する体験活動の促進 食文化の「継承に向けた食育の推進						
実施状況	①事業名	料理講習会を通じた食文化伝承と体験活動の推進					
	②実施時期	通年	③実施対象	一般市民(特に子ども、若い世代)			
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	地域や学校等において、笹団子やのっぺをはじめとする郷土料理の実習を食生活改善推進委員と共に講習している。調理実習を通して、手作りのよさや一緒に作る楽しさ、風土や先人の知恵なども伝えている。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		活動回数	郷土料理の活動回数	回	目標	8	平成29年度の実績8回をもとに算出
					実績	8	
達成率	100%						
評価 A欄	達成						
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	郷土料理を次世代へ伝えていくことをねらい、笹団子作り講習会や子ども及び若い世代を対象とした郷土料理・伝承料理の講習会を実施している。				
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	親子笹団子作り講習会や児童館での郷土料理講習は子どもの休日に合わせて開催している。また食育だよりにおこわ団子等郷土料理の特集を掲載し幅広い年代への普及を図った。				
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか	実習や食育だよりを通して、郷土の食文化や風習、食生活の知恵なども伝承している。				
評価 B欄	③						
成果及び今後の課題	近年は防災時に対応するパッククッキングの体験や学校のカリキュラムに合わせた食育指導が多く、郷土料理に限らなければ、子どもの食の体験活動は各地区において学校や地域・児童館等で、また若い世代へは支援センターやサークル活動等で多数実施できている。今後は対象のニーズとのバランスも保ちつつ、可能な限り食文化の継承に向けた食育の視点を意識し、取り入れていく。						
担当課による評価結果	A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている						

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 健康づくり課 母子チーム

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する 基本目標2:食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む					
施策		望ましい食習慣の定着 食を通じたコミュニケーションの促進 若い世代の正しい食生活に対する食育の推進					
実施状況	①事業名	母子保健事業【乳幼児健診(4か月児・10か月児・1歳6か月児・3歳児)、育児相談会(2か月児・全年齢)、離乳食相談会、ハッピーベビークラブ(妊婦)】					
	②実施時期	通年			③実施対象	妊婦、乳幼児とその保護者	
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	正しい食の知識や生活習慣、食事を楽しむこと等についての集団指導や個別指導。グループワークを行い、妊婦及び母親同士のコミュニケーションの推進。身体計測値より肥満度の算出。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		参加人数	離乳食相談会参加人数	人	目標	450	昨年度までの実績をもとに算出
					実績	466	
					達成率	104%	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		妊娠期・乳幼児期から望ましい食習慣の形成を獲得することを目標とした事業の実施と、コミュニケーションの促進のための運営方法を考慮して企画している。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		離乳食相談会は対象月齢を限定せず参加できる形態とし、継続参加者も多く、不安の解消と食習慣の基礎の習得につながっている。健診では対象年齢に合わせた集団・個別の指導形態をとっている。			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		各年齢に合った発育発達のための適切な食の指導を行うとともに、楽しく食べる体験を通して食べる意欲や心の豊かさを育てるといった食の視点を大切にしている。			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		食習慣とともに生活リズムの基礎の形成が重要な時期であるが、幼児の就寝時間が遅い(3歳児健診で10時以降に就寝する児の割合約4割)ことが課題である。望ましい食習慣の定着のために、早寝早起きの生活習慣を働きかけるとともに保護者自身に大切さを認識してもらう必要がある。食事・生活リズムリーフレットを作成し、乳幼児健診で活用し、幼児期の望ましい食習慣・生活習慣の推進を強化する。					
担当課による評価結果		B :食育の視点を取り入れ事業を実施している					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 健康づくり課 母子チーム

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する					
施策		歯科保健活動における食育の推進					
実施状況	①事業名	歯科健診などでの生涯各期に応じた食育の推進					
	②実施時期	通年			③実施対象	市民	
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	幼児歯科健診でのフッ化物歯面塗布、全園や小中学校でフッ化物洗口を実施。その他にむし歯予防教室等において歯や口の健康に関する取り組みを行っている。 成人では、特定健診でのだ液潜血反応検査、地域での講習会、訪問歯科診療を行っている。 毎年、歯科医師会との共催事業である歯っぴーフェアでは、歯科健診、フッ化物歯面塗布、川柳表彰、歯にいいおやつレシピ紹介を行っている。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		3歳児むし歯有病者率	3歳児むし歯有病者/3歳児健診受診者	%	目標	12	昨年度までの実績をもとに算出
					実績	8.3	
					達成率	-	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		歯や口腔の健康と食生活には密接な関係があることから歯科保健における各世代の目標や各種事業に、口腔ケアに合わせた食育の推進を取り入れている。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		幼児健診や特定健診に合わせた事業実施や園・学校での取り組みの他、全世代を対象とした歯っぴーフェアの開催及び食育だよりを活用し歯科と食育の推進を行った。			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		健診では口腔ケアだけでなく食事内容や間食のとり方の指導、食育だよりではよく噛むための食事や効用、歯っぴーフェアでは歯にいいおやつの紹介等、各事業において食育の視点を取り入れた。			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		活動指標とした3歳児むし歯有病者率は目標を達成できているが、2歳から3歳児にかけてのむし歯有病者率の上昇率は高い。今後もむし歯予防のための生活習慣定着に向け、各種歯科健診やイベント等で各世代に向けた口腔ケアと食の関連について啓発活動を行っていく必要がある。					
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 健康づくり課 成人チーム

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する 基本目標3:食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する						
施策		望ましい食習慣の定着 高齢者の低栄養予防のための取り組み 食を通じたコミュニケーションの促進						
実施状況	①事業名	機能訓練・介護予防関連事業における食育推進(機能訓練事業・頭の体操教室・各地区健康相談会・高齢者サロン)						
	②実施時期	通年		③実施対象	一般市民(高齢者)			
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	各地区健康相談会や高齢者サロンでは、食に対する興味関心を高め、普段の食生活を振り返りつつしっかりと3食バランス良く食べることや、低栄養を予防するような健康教育を行う。頭の体操教室ではリハビリや認知症予防も考慮し、調理実習を実施する。バランスの良い食事をとることや、みんなで作り食べる楽しみを味わうことで心身の健康度を高める。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠 H29年度の地区高齢者サロンでの食育指導回数に基づいて算出	
		地区高齢者サロンの食育指導回数	H30年度の地区高齢者サロン等で食育指導を行った回数	回		目標		8
						実績		9
						達成率	112%	
評価 A欄		達成						
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入				
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		地区担当保健師と相談し、各地区健康相談会や高齢者サロンの実情に応じて、実施の時期や年代を踏まえて参加者のニーズに合った内容で企画する。				
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		参加者の年代や人数を考慮し、調理実習や試食、クイズ、食育媒体などを組み合わせ、より興味を持ってもらえるような内容を心がけた。				
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		時期に応じ、熱中症予防、減塩の啓発、防災食など参加者の興味に沿った内容で実施した。また、フレイル予防に関しては各相談会・教室・サロンに共通して啓発を行った。				
評価 B欄		③						
成果及び今後の課題		水害・地震など災害の続いた年だったためか、防災食について関心が高まっており、パッキングを取り入れたところ好評であった。家庭での食事作りを担うことが少ない高齢世代でも、こうした調理体験の機会を通して地域の交流と食生活の振り返りができると感じている。						
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている						

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 健康づくり課 成人チーム

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する 基本目標2:食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む					
施策		望ましい食習慣の定着 生活習慣病予防・重症化予防のための取り組み 若い世代の正しい食生活に対する食育の推進 食への感謝の気持ちや基本的マナーの定着					
実施状況	①事業名	成人保健事業における食育推進 (特定保健指導・糖尿病・骨粗鬆症・メタボ予防・職域健診指導・男性の料理教室)					
	②実施時期	通年			③実施対象	一般市民	
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	特定健診や職域健診の会場など、市民全体へ発信可能な場所で、「減塩」「肥満予防」「糖尿病予防」の食事について、媒体やパンフレットを用いて普及啓発を実施している。肥満予防、糖尿病予防事業として健診結果活用講座、スッキリ教室、糖尿病検診結果説明会などの集団指導を、個別では糖尿病食事相談会を開催している。また昨年度より骨粗鬆症予防相談会を定期的に燕・吉田・分水の3地区で開催している。男性の料理教室では、調理や栄養、衛生知識の基本だけでなく、調理を通しての交流や楽しさも伝えている。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		スッキリ教室参加者のメタボ判定	メタボ判定が改善または維持できた人の割合	%	目標	100%	平成28→29年度のメタボ判定が改善または維持できた人の割合
					実績	92.3%	
達成率	92.3%						
評価 A欄		未達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		生活習慣病予防のための食生活改善指導を、スッキリ教室食事編や調理実習編ではもちろん、運動編でも継続して振り返り、効果的に身につくように指導した。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		今年度よりスッキリ教室の対象を限定し、74歳以下で、健診結果(血糖値または腹囲)の数値が高めの方とした。生活習慣病予防への取り組みを通し、健診結果の改善に向けて、個々に合った具体的な目標・行動計画が立てられる効果を狙った。			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		個々のアンケートや聞き取りから普段の生活の問題点を挙げ、生活に沿った具体的な食生活改善指導をしている。			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		スッキリ教室の継続参加者については、メタボ判定が現状維持または改善でき、教室の効果で半数以上の人に腹囲や体重等の減少が見られた。教室でのグループワークを通して、参加者同士が意見交換や目標を掲げて共有することにより、定期的な運動習慣と、バランスのよい食習慣などの生活改善への意識が高まっている。この教室をきっかけに、望ましい食習慣と運動習慣の定着が出来るようにすすめ、さらなる改善が出来るよう支援する					
担当課による評価結果		B :食育の視点を取り入れ事業を実施している					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 子育て支援課 子育て支援係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標	基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する											
	基本目標2:食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む											
	基本目標3:食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する											
	基本目標4:食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する											
施策	望ましい食習慣の定着			食文化の継承に向けた食育の推進								
	食への感謝の気持ちや基本的マナーの定着			地産地消の推進								
	食を通じたコミュニケーションの促進											
	子ども、若い世代の食に関する体験活動の促進											
実施状況	①事業名	幼稚園・保育園・こども園における給食の提供										
	②実施時期	通年		③実施対象	園児							
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	<ul style="list-style-type: none"> ●国基準の給食の提供及び園生活で食事のマナーを学び、食べ物への興味や知識を知り、人と一緒に楽しく食べる。 ●食物アレルギー疾患をもつ園児に「食物アレルギー対応食」を提供する。 ●給食だより、給食展示、給食の試食、レシピの提供により、給食の内容を知ってもらう。 ●行事食や伝統食を取り入れて食文化を継承していく。 ●地産地消の推進(吉田地区で、じゃがいも・たまねぎ・かぼちゃ・だいこん・長ねぎ) 										
	事業の検証	成果指標	指標名	指標の算出方法	単位	H30	目標値の根拠					
		喫食量	出席者数の摂取量/在籍者数の発注量	%	<table border="1"> <tr> <td>目標</td> <td>99.8</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>98.7</td> </tr> <tr> <td>達成率</td> <td>99</td> </tr> </table>	目標	99.8	実績	98.7	達成率	99	平成29年度実績99.8%に基づく
目標	99.8											
実績	98.7											
達成率	99											
評価 A欄		未達成										
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入								
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		給食が、「おいしい」「楽しい」と感じられるように。また、苦手な食材も、取り入れて献立作成している。								
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		給食の展示や保護者に試食やレシピの提供をしている。また、給食だよりや講演会で食に関する情報を提供している。								
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		園生活で、食事のマナーを学び、食べ物への興味や知識を知り、人と一緒に楽しく食べることを実践している。								
評価 B欄		③										
成果及び今後の課題		喫食量は99%と悪くはないが、100%に少しでも近づきたい。										
担当課による評価結果		B :食育の視点を取り入れ事業を実施している										

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 子育て支援課 子育て支援係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する 基本目標2:食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む 基本目標3:食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する						
施策		望ましい食習慣の定着 食への感謝の気持ちや基本的マナーの定着 食を通じたコミュニケーションの促進 子ども、若い世代の食に関する体験活動の促進						
実施状況		①事業名	キッズ健康講座					
		②実施時期	年1回	③実施対象	園児・保護者・職員			
		④内容 <small>(食育推進のための留意点等も)</small>	テーマは、「楽しく食べて元気な子どもに！早寝・早起き・朝ごはん」。2部構成で前半は保護者を対象に講話。後半は、親子で給食体験で、主食は親子でおにぎりを作り、副食は園の給食を親子で食べる。事前に、園児の生活状況についてアンケートを実施し結果を当日の講演に盛り込み保護者から我が子の食生活をふり返ってもらおう。また、自分で作る楽しさやおいしさを知ってもらったり、子供用の味付けや具材の大きさを知ってもらおう。					
事業の検証		成果指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
			食育講話の満足度	講座終了後のアンケート結果	%	目標	100	平成29年度実績 大変参考になった、まあまあ参考になった合わせて 100%
						実績	100	
達成率	100							
評価 A欄		達成						
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入				
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		国が推進している「早寝・早起き・朝ごはん」を普及する。				
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		保育参観に講座を実施した。				
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		参加者に事前アンケートを実施し、その結果と「早寝・早起き・朝ごはん」の内容を比較しながら講話をすることにより、自身の生活を振り返れるようにした。				
評価 B欄		③						
成果及び今後の課題		事後アンケートを見ると、自身の生活を見直すきっかけとなっていることがわかり、全員「よかった」と回答しているので、今後も継続したい。						
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている						

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係

学校教育課 学校給食係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標	基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する						
	基本目標2:食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む						
	基本目標3:食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する						
	基本目標4:食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する						
施策	望ましい食習慣の定着			災害に対する食の備え			
	生活習慣病予防・重症化予防のための取り組み			食を通じたコミュニケーションの促進			
	若い世代の正しい食生活に対する食育の推進			食への感謝の気持ちや基本的マナーの定着			
	歯科保健活動における食育の推進						
実施状況	①事業名	食の普及啓発事業					
	②実施時期	通年		③実施対象	燕市内小中学校、市民		
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	①「学校給食&食育だより」の発行・HP掲載、学校と市教委連携の「食育だより」の発行 ②学校の食育授業用教材の教材開発、教材の周知と貸し出し ③給食川柳の募集・選定と表彰 ④市出身の料理研究家とコラボ事業(給食レシピ開発)					
事業の検証	成果指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		満足度(アンケートの実施)	新メニューに対し、「満足」と評価する児童生徒の割合	%	目標	75	回答者の3/4
					実績	77	
					達成率	102	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		地産の野菜の情報を提供、使用食材を給食センターに配置された栄養士の裁量とした。(給食レシピ開発)			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		発達段階にあわせた教材の開発及び周知を行った。(食育授業用教材)			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		各学校の実施した食育授業をまとめ、他校、保護者へ周知を行った(食育だより)			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		例年行っている食育の啓発に加え、今年度給食の新メニュー開発を行った。子どもたちの評価はおおむね好評であったので、今後はメニューの定着を目指す。					
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係

学校教育課 学校給食係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標	基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する					
	基本目標2:食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む					
施策	望ましい食習慣の定着			食の安全・安心の確保		
	生活習慣病予防・重症化予防のための取り組み 若い世代の正しい食生活に対する食育の推進 食を通じたコミュニケーションの促進					
実施状況	①事業名	食物アレルギー対応の推進				
	②実施時期	通年		③実施対象	児童生徒、保護者、教職員、学校栄養教職員、給食従事者等	
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	<ul style="list-style-type: none"> ・食物アレルギー食対応マニュアルの運用 ・学校給食での除去食・代替食の提供 ・食物アレルギーを持つ児童生徒の保護者との情報交換会の開催 ・食物アレルギーに関する研修会の開催 ・有識者によるアレルギー対応委員会の開催 				
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位	H30	目標値の根拠
					目標	
					実績	
					達成率	
評価 A欄						
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入		
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		安全・安心な食育の推進として、国と県の指針を基にアレルギーマニュアルを改訂し、アレルギー対応委員会においてマニュアル改正や市の方針を審議した。		
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		改めて小学校・中学校の栄養教職員・養護教諭との情報共有を行い、現場に即したマニュアルの整備を行った。		
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		食物アレルギーに関する知識等の普及のため、教職員を対象に研修会を開催し、また誤食事故等の発生を防止するため、学校でのアレルギーに関する事例は学校と関係者に情報共有している。		
評価 B欄		③				
成果及び今後の課題		今後とも、東部学校給食センター、西部学校給食センターにおいて、適切かつ確な食物アレルギー対応を給食現場や学校で進める。				
担当課による評価結果						

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係

学校教育課 学校給食係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標4: 食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する						
施策		食への感謝の気持ちや基本的マナーの定着 地産地消の推進 食の安全・安心の確保						
実施状況	①事業名	学校給食における地産地消の推進						
	②実施時期	通年			③実施対象	燕市内小中学校		
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	①学校給食に地場野菜導入を推進するため、地元生産者と給食食材納入推進会議を開催(月1回) 今年度より、東部学校給食センターでも新たに導入。 ②JA越後中央営農センターから給食食材・給食用精米を購入 ③西部学校給食センターにおいて、地元で製造した給食用物品を展示						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠	
		学校給食地産地消率	燕市を含む県内産野菜の使用割合	%		目標	30%	昨年度までの実績をもとに算出
						実績	32%	
						達成率	107%	
評価 A欄		達成						
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入				
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		地元生産者へ青果物の発育状況などを確認することにより、献立に活かすことができた。				
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		栄養教職員の協力により、給食だよりや給食時間のひとコマメント等を通して、児童生徒・保護者等へ地産地消についての情報を提供した。				
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		地元生産者から納品された青果物を使用する献立がある場合、各学校へ、生産者の名前と野菜名を事前に連絡し、情報提供した。				
評価 B欄		③						
成果及び今後の課題		納入できる地場野菜の種類の拡大。						
担当課による評価結果		A : 実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている						

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 長寿福祉課 長寿福祉係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する					
施策		望ましい食習慣の定着 高齢者の低栄養予防のための取り組み					
実施状況	①事業名	通所型サービスC「健康教室」					
	②実施時期	5~9月(燕・吉田・分水地区) 8~12月(燕地区) 11~3月(燕・吉田・分水地区)	③実施対象	要支援1・2 総合事業対象者			
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	「運動・口腔機能向上プログラム」 理学療法士等の運動(下肢筋力アップのための筋トレ) 歯科衛生士の口腔清掃指導、唾液腺マッサージ指導、食事姿勢の指導(誤嚥性肺炎の予防)、パンフレットを用いて低栄養・脱水予防の指導					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		健康教室参加者数	年間11回分の教室参加者数	人	目標	115	平成29年度の実績に基づき算出(平成29年度の参加者は113人)
					実績	67	
					達成率	58.3	
評価 A欄		未達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		基本チェックリスト該当者や長寿歯科健診受診者(口腔機能低下の人)、要支援1・2と認定されているが、サービスを利用していない人に「健康教室」の参加を勧めた。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加しやすい形態を考慮したか		参加者の希望や心身の状態によって、家⇄会場まで送迎を行った。 口腔ケアや低栄養予防だけの教室では参加者の興味をひかないため、ニーズの高い運動指導と合わせて実施した。			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		歯科衛生士の口腔ケアの指導以外にも、「水分摂取」「栄養バランス」「(もちなどによる)窒息予防」「よく噛むことでの認知症予防」など高齢者の食に関する様々な講話も行っている。			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		参加者のほとんどが「卒業生の会」や「予防型通所サービス」など、次の事業につながった。また、『痛みがなくなった』『以前よりもよくなった』など身心ともに元気になったという人が多く、今後も習得した体操や口腔ケアを続けていきたいという声が聞かれている。H30年度は教室の回数が減り、参加者も少なかった。参加してもらいたい対象者へどうアプローチしていくかが課題である。					
担当課による評価結果		B :食育の視点を取り入れ事業を実施している					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係

農政課 生産振興係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標4: 食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する					
施策		食の安全・安心の確保 地産地消の推進					
実施状況	①事業名	燕市農業まつり					
	②実施時期	11月4日(日)			③実施対象	燕市民他	
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	地元産農産物、加工品、特産品等を消費者に即売する。また、農産物の品評会を行い地元産農産物の品質等を鑑賞してもらう。「食」に対するニーズが多様化するなか、農家との交流を通じて消費者から地産地消への理解を深めていただき、顔の見える安全で安心な燕市の農産物の消費拡大を図る。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		来場者数	来場者の車の台数	人	目標	7,500	昨年度の実績
					実績	9,300	
					達成率	124%	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		農業者と消費者の交流を通じて、市内の農産物や農産加工品を多くの人に手に取ってもらい、地産地消を推進することを目的とした。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		子供からお年寄りまで幅広い年代が楽しめるよう、地元産農産物を様々な形に加工した販売を行った(味噌漬け、ラーメンなど)。今年は農福連携のブースが設けられ、食を通じて様々な立場の方が携わるイベントとなった。			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		地元食材による「大なべ」の提供や農産物品評会・もちつき等、特色あるイベントを展開し、消費者へ新鮮で安全・安心な地元産農産物を提供することで、食への関心が深まるよう努めた。			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		今年度は天候に恵まれたことから、来場者が目標を大きく上回った。市内の農産物や農産加工品を多くの人に手に取ってもらうことで、地産地消を広げる良い機会となった。今年度はもとまききゅうりのプレゼント企画があり大変好評だったので、燕市の他の特産品についてもPRできるような企画を考えたい。					
担当課による評価結果		A : 実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係

農政課 生産振興係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標3: 食に関する様々な体験を通じ、燕市の食文化を次世代へ伝承する					
施策		食の安全・安心の確保 地産地消の推進					
実施状況	①事業名	首都圏販路拡大推進事業「うんめえ〜つばめ産 ときめき秋の陣 Part10」					
	②実施時期	10月12日(金)~10月14日(日)	③実施対象	首都圏在住者			
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	燕市産農産物の消費拡大のため、首都圏において燕市産の農産物、加工品等を広くPRすると共に、主力となる特別栽培米コシヒカリ「えちごつばめの飛燕舞」、やさしい環境で育った「つば九郎米」の消費及び普及の拡大を図り、安全・安心な燕産農産物を提供する。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		目標値の根拠	
		来場者数	施設(表参道新潟館ネスパス)が算出した数	人	目標	15,108	昨年度実績
					実績	12,275	
					達成率	81%	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		燕市の特産品および食文化について首都圏の方に知ってもらうことを目標の一つとした。また、今年も生産者と消費者がお互いの理解を深められるよう、農業者による農産物の対面販売を企画した。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		おにぎりや豚汁を販売した際、会場内に飲食スペースを設け、様々な世代の来場者へ食を通じたコミュニケーションの場を提供した。			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		食の安全・安心に対する消費者の関心が高まっていることから、燕市のブランド米「飛燕舞」を対面販売する際、農薬・化学肥料を5割減らした安全・安心な米であることをPRした。			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		今年度も農業者が対面販売をしながら消費者と交流した。来場者は農産物の特徴やおすすめの食べ方等を質問しており、農業者が自ら生産した農産物の魅力を伝える良い機会になった。今年度はイベント実施期間が昨年度より短かったことから来場者が減少したが、消費者との交流によって、首都圏の方に燕市の農産物の魅力を伝えることができた。					
担当課による評価結果		B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 生活環境課 環境政策係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標4: 食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する					
施策		食の循環や環境を意識した食育の推進					
実施状況	①事業名	生ごみ処理器(機)設置補助金					
	②実施時期	通年			③実施対象	市内に住所を有する者	
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	市内の各世帯から排出される生ごみの減量化、償却の効率化及び堆肥としての資源化を図ることを目的として、生ごみ処理機の普及促進を図る。 そのため、市内に住所を有する者で、生ごみ処理機を販売する市内に本社または営業所を有する業者から、生ごみ処理機を購入し設置する者に対して補助を行う。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		補助金額	交付実績	千円	目標	143	予算額の50% (H29年度執行率約24%)
					実績	157	
					達成率	110%	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		-			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		周知を図るため、4月に広報で案内を出したほか、HPIに内容を掲載し情報提供を行っている。申請者の手間を少なくするため、申請書や実績報告書をHPからダウンロードできるようにしている。			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		-			
評価 B欄		②					
成果及び今後の課題		昨年度と比較して、補助件数は13件から10件と減少した。 しかし、電動タイプの補助件数が増えたため、全体の補助金額は67,500円から157,700円と増え、目標を達成した。 今後も、市民へ導入するメリットなどを示しながら周知を図っていきたい。					
担当課による評価結果		B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 生活環境課 環境政策係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標4: 食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する					
施策		食品衛生の面からの食の安全の確保					
実施状況	①事業名	食品衛生協会補助金					
	②実施時期	年度末			③実施対象	燕支部、吉田支部、分水支部	
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	公衆衛生の推進を目的とする、飲食店を中心とした食品衛生協会に対し、活動資金として補助を行うことにより、食品関係の衛生環境の保持、公衆衛生の向上を図るもの。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		補助金額	交付実績	千円	目標	163	予算額
					実績	163	
					達成率	100%	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		-			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		-			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		-			
評価 B欄		①					
成果及び今後の課題		直接的な助言・指導を行う機会が少ないのが現状だが、今後、食品ロス削減の取組への協力等、補助金の有効活用について検討していきたい。					
担当課による評価結果		C : 食育の視点で事業を実施できなかった					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 社会教育課 公民館事業係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する 基本目標2:食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む					
施策		望ましい食習慣の定着 食の循環や環境を意識した食育の推進 食の安全・安心の確保 地産地消の推進					
実施状況	①事業名	子ども料理教室(Let's try! エコクッキング)					
	②実施時期	8月、12月	③実施対象	燕地区小学生			
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	子どもを対象とした料理教室。調理から後片付けまで「エコ」をテーマとした座学と調理実習を行う。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠 使用する調理室器具で対応できる人数にあわせ定員数を算出
		定員数	1回の教室で対応できる人数	人	目標	32	
					実績	34	
					達成率	106%	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		開催時期にあわせ季節感のあるテーマ、調理ばかりでなくエコについての座学も取り入れた教室の企画・立案をおこなった。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		開催会場の地元である燕地区の全小学校にチラシを配布し、児童が参加しやすい日曜日開催をおこない参加募集の啓発に努めた。			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		使用する食材は出来る限り地元のものを使い、調理段階においても野菜くずを出さないよう食事の大切さを学びながらおこなった。			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		平成28年度までは燕地区の分館を会場に実施していたが例年参加数が芳しくなかった。昨年度より会場を中央公民館に変更したところ毎回定員(16名)をはるかに超える申し込みがあり好評を得ている。白根ガスとの共催事業は平成30年5月31日をもって終了となったが、地域サービスの一環として引き続き事業を行っていきたいとの申し出により開催している。申し込みは電話受付による先着順だが、先回も参加しているケースも多く見られるため受付方法を考えていく必要がある。					
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係 社会教育課 公民館事業係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する 基本目標2:食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む							
施策		望ましい食習慣の定着 食を通じたコミュニケーションの促進 食への感謝の気持ちや基本的マナーの定着 子ども、若い世代の食に関する体験活動の促進							
実施状況		①事業名		家庭教育推進事業(食育活動から展開する家庭教育講座)					
		②実施時期		③実施対象		乳幼児及び小学生とその保護者			
		④内容 (食育推進のための留意点等も)		・親子一緒に料理することでコミュニケーションを図り、料理の楽しさや食への関心を高めてもらう。家庭で楽しみながら伝えられる「食」の大切さを学ぶ。 ・料理を通じ子どもたちに思いやりの心や感謝の気持ち、および自立心を育て、子どもの健やかな心と体の育成を図る。					
事業の検証		成果指標		指標名	指標の算出方法	単位	H30	目標値の根拠 講師の人数に応じて対応できる限度数。	
				定員数 各回:親子12組	1回で対応できる 親子の数	組	目標 60		
							実績 38		
							達成率 63%		
評価 A欄		未達成							
事業の実施状況		評価のポイント			実施内容を具体的に記入				
		1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		開催時期にあわせ季節感のあるテーマで、親子一緒に楽しみながら料理することでコミュニケーションを図りながら「食」の大切さを学んでもらえるよう企画・立案を行った。				
		2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		参加者の生活スタイルに支障がないよう考慮し、各回とも水曜日の10:30~13:00開催とし参加募集に努めた。				
		3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		旬の食材、地元の食材を用い親子で一緒に調理し、参加者全員で楽しく会食しながら家庭教育講座を行った。				
評価 B欄		③							
成果及び今後の課題		毎回、調理実習と子育てのポイントを絞り家庭教育支援ガイドブックに沿った内容での座学も取り入れており、アンケートでの満足度は高い結果がでている。 HP、広報誌などで募集を行っているが、毎回参加数が定員に満たない現状である。アンケートでは参加のきっかけは他の人からの口コミが多いため、さらに多くの子育て支援施設への積極的なPRを行うなどして、参加者の増加を図り食育を通じ家庭教育の重要性を学ぶ機会の普及に努めていきたい。							
担当課による評価結果		B :食育の視点を取り入れ事業を実施している							

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係

地域振興課 地域振興係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標	基本目標2: 食を通じたコミュニケーションと食への感謝の気持ちを育む							
施策	食を通じたコミュニケーションの促進							
実施状況	①事業名	市民と事業者へワーク・ライフ・バランスの情報提供と啓発						
	②実施時期	8月・10月・1月	③実施対象	市民、市内在勤者、市内事業者				
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	・8月に市内事業者・市管理職員を対象に「イクボス研修会」を開催し、部下や自身のワーク・ライフ・バランスについて意識啓発を図る。 ・広報つばめ10月1日号に男女共同参画コラムでワーク・ライフ・バランスについて掲載し、意識啓発を図る。 ・1月に事業者・住民を対象に「つばめ・やひこ女性活躍推進フォーラム2018」を開催。ワーク・ライフ・バランスの実現をテーマの一つとして講演会と事業所の取組事例発表を行う。仕事と家庭生活の両立の重要性を啓発する。						
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠	
		ワーク・ライフ・バランスについての理解度	アンケート調査の回答割合	%		目標	50	フォーラム参加者の半数がワーク・ライフ・バランスについて、理解を深めるものとして算出
						実績	92	
				達成率	184%			
評価 A欄		達成						
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入				
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか						
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		「つばめ・やひこ女性活躍推進フォーラム2018」の開催にあたっては、参加してもらいやすい日程を実行委員会にて協議した。				
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか						
評価 B欄		②						
成果及び今後の課題		ワーク・ライフ・バランスの実現は、少なからず食育推進につながると考えられることから、今後もワーク・ライフ・バランスの実現を推進していく。						
担当課による評価結果		B : 食育の視点を取り入れ事業を実施している						

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係

商工振興課産業支援係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標	基本目標4: 食の安全と地元産農作物への理解を深め、地産地消を推進する						
施策	地産地消の推進						
実施状況	①事業名	道の駅「国上」での「そばの日」を設定した地産地消の推進					
	②実施時期	随時	③実施対象	道の駅「国上」への来訪者			
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	国上地区で収穫したそば粉を100%使用した、道の駅手作りの麺を提供する「久賀美そばの日」を毎月1回程度開催している。また、道の駅のオリジナル商品として、そば粉で作ったアイスクリームや羊羹を販売している。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		提供数	「そばの日」に提供された食数	食	目標	1780	H29年度より算出
					実績	1972	
					達成率	111%	
評価 A欄	達成						
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか	国上地区で収穫されたそば粉を使用した、久賀美そばを提供し、地産地消の推進を図る。				
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか	気軽に立ち寄れる食堂で実施し、各種提供の日にあわせて広報や道の駅ホームページ等で告知を行った。				
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか	確実に提供した。				
評価 B欄	③						
成果及び今後の課題	平成30年度の年間達成率が111%となり、目標値を大きく上回った。前年より久賀美そばの提供日数が増えた為食数の増加につながったと思われる。今後も、「道の駅」の特性を活かし、市内だけでなく、市外の方にも広くそばの魅力を伝えられるような告知に力を入れる等、引き続き地産地消の推進に努めていきたい。						
担当課による評価結果	A : 実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている						

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係

防災課・防災対策係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する					
施策		災害に対する食の備え					
実施状況	①事業名	出前講座等による災害時の食についての知識の普及					
	②実施時期	通年			③実施対象	市民及び女性防災リーダー養成講座、県央食品衛生協会会員等	
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	地域や家庭・事業所等における防災について、実体験を含めた講話を実施。その中で、災害時の食の在り方について正しい知識等の普及を図った。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		出前講座等実施件数	出前講座等を実施した件数	件	目標	24	H29年度実施件数 ※23件
					実績	30	
					達成率	125%	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		地域や家庭・事業所等における防災をテーマに、実体験を含めた災害時の食事の紹介や食事支援で注意すべき事項の周知を企画。 また、パッククッキング・水出しパスタなども企画。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		まちづくり協議会・自治会・保健推進委員・女性防災リーダー養成講座・老人会等々、それぞれのコミュニティーに応じて実施。			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		生き残るための食事を衛生面を最重視して周知した。			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		毎年度の出前講座等により、多くの市民等に周知できている。 目標は達成済みであるが、引き続き出前講座やその他の機会でも周知を実施する。					
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係

防災課・防災対策係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する					
施策		災害に対する食の備え					
実施状況	①事業名	備蓄品の整備					
	②実施時期	5月	③実施対象				
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	各小学校区に複数ある避難所のうち1つの避難所に備蓄品を整備。 今年度から、アレルギー対応の非常食「梅がゆ」を備蓄。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		備蓄数	アレルギー対応の非常食の備蓄数	食	目標	720	備蓄計画 H30年度～H34年度で合計 3,640食備蓄予定
					実績	720	
					達成率	100%	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		食物アレルギーに対応した非常食を備蓄するよう考慮。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか					
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		食物アレルギーに対応した非常食を備蓄するよう考慮。			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		今後も備蓄計画に従い備蓄していく。					
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					

平成30年度 燕市食育推進計画 実施状況・評価票

所属課・係

防災課・防災対策係

事業ごとに1枚の調査票を記入してください。

基本目標		基本目標1:健康寿命の延伸を目指し、望ましい食習慣を実践する					
施策		災害に対する食の備え					
実施状況	①事業名	女性防災リーダー養成講座					
	②実施時期	11月21日		③実施対象	女性防災リーダー養成講座申込者		
	④内容 (食育推進のための留意点等も)	家庭内備蓄と避難時の携行食の説明・災害食調理。 ※女性防災リーダー養成講座とは…女性のみを対象に、多くの防災知識を身につけてもらうためのより具体的・実践的な講座。全6回のうち、第6回目に災害時の食をテーマに講座を実施する。					
事業の検証	活動指標	指標名	指標の算出方法	単位		H30	目標値の根拠
		参加者数	第6回目への参加者数	人	目標	20	申込者数の70%
					実績	21	
					達成率	105%	
評価 A欄		達成					
事業の実施状況	評価のポイント			実施内容を具体的に記入			
	1	【企画・立案】 企画・立案の段階で、食育の視点を取り入れたか		「家庭内備蓄と避難時の携行食・災害食調理」をテーマに、実体験を含めた避難所での食事例の紹介や衛生管理、家庭での備蓄方法等についての講座を企画。 また、アルファ米の試食や災害食調理も企画。			
	2	【ライフステージ】 ライフステージに応じて、参加利用しやすい形態を考慮したか		平日の夜7時～8時30分に講座を実施			
	3	【実施】 実施に関して、食育の視点を取り入れたか		「家庭内備蓄と避難時の携行食・災害食調理」をテーマに、実体験を含めた避難所での食事例の紹介や衛生管理、家庭での備蓄方法等についての講座を実施。 また、アルファ米の試食や災害食調理も体験。			
評価 B欄		③					
成果及び今後の課題		家庭内備蓄における優先順位やローリングストック・避難所での食事に関する重要事項について、また、アルファ米や水出しパスタなどの調理法を習得していただけたと思う。					
担当課による評価結果		A :実績値が目標値以上であり、順調に取り組まれている					